

まえがき——本報告書の目的と概要

目 的

航空医療もしくは救急飛行は、今のところ日本ではヘリコプターが主流である。しかしアメリカやオーストラリアのような大陸国、あるいはヨーロッパ全域や地球規模の広い範囲を考えるならば、ヘリコプターばかりでなく飛行機の利用も考えられる。

当然これらの国では盛んに飛行機が使われている。それも、ヘリコプターよりも飛行機の方が早くから利用されてきた。実用になった時期が早かったからである。

飛行機はライト兄弟が初飛行に成功した 1903 年から間もなく実用化された。それに対しヘリコプターは 40 年ほど遅れて第二次大戦末期から実用になり、最初は戦場に投入された。民間機として使えるようになったのは 1946 年以降、アメリカで初めてベル 47 が商用飛行のライセンスを取得したときからである。

ここで念のために、航空機と飛行機の区別を再確認しておきたい。「航空機」(aircraft)という言葉は意味が広く、ヘリコプター、飛行機、飛行船、滑空機(グライダー)など、人が乗って空を飛ぶ乗り物をいう。それに対して「飛行機」(airplane)は固定翼のついた航空機のこと、固定翼機とか固定翼航空機ということもある。したがって飛行機にはヘリコプターすなわち回転翼航空機は含まれない。

では、日本では航空医療に飛行機を使う必要はないのだろうか。そうではなくて、いずれは日本でも飛行機が必要になる日がやってくる。実は今でも必要なのだが、条件もしくは環境がととのわないために実現に至っていないのである。本報告書は、その考えを進めるための基礎的な材料を収集し提供するものである。

オーストラリアの調査

前項の目的を達成するために、HEM-Net では 2009 年オーストラリアに赴き、長年にわたっておこなわれてきた飛行機による救急医療の実情を調査した。この報告書は、その結果を中心とし、他の国の状況も加えて、編集したものである。

調査の日程

本調査は、下記の日程で所要の機関を訪ね、レクチャーを受け、資料を集めた。

月日(曜日)	都 市	訪問先
2月2日(月)	ブリスベーン	ロイヤル・フライング・ドクター・サービス
2月3日(火)	ブリスベーン	ケアフライト・クイーンズランド
2月4日(水)	(移 動)	
2月5日(木)	シドニー	ケアフライト・シドニー

担当者

本調査は下記担当者によって実施した。

- ・ 山野 豊 (HEM-Net 理事)
- ・ 西川 渉 (HEM-Net 理事)

謝 辞

本調査にあたっては豪州ケアフライト・グループのトレイシー・ハリスさんに受入れ調整の労をとっていただきました。その調整により、それぞれの部署でレクチャーならびに見学のご案内をいただいたオーストラリア・ニュージーランド航空医療学会 (ISAS) のイアン・バダム会長を初め、ドクター、ナース、パイロットその他の方々にも厚くお礼申し上げます。

さらに ANA 総合研究所の主席研究員、松尾晋一さんには現地で合流していただき、道中不案内なわれわれのためにご同行いただきました。厚く御礼申し上げます。なお、ご参考までに、松尾さんは日本でも固定翼機による長距離の救急患者搬送が必要というお考えから、かねてわれわれ HEM-Net とも意見交換をしてきた気鋭の研究者です。

